

EXPASA 御在所（上り線）の開発コンセプト

味蔵 = みくら = 御蔵

EXPASA 御在所（上り線）は、伊勢方面や関西方面から中部地方へ向かうお客さまが三重県内で最後に訪れるSAとなります。そこで、施設設計にあたっては、三重県への思いと三重県の思い出をぎっしりと詰め込む「蔵」をモチーフとしました。

■ イメージ計画

三重県における代表的な建築物といえば伊勢神宮です。神宮正殿じんぐうしょうでんを模した切妻・平入きりづま ひらいりの様式に対し、白壁の飾り窓など「蔵」のモチーフを重ねて、さらに入口廻りを大きなガラス開口とすることで、扉を大きく開けてお客さまをお迎えする「蔵」のイメージをもたせています。全体として懐かしさを感じられる空間となります。

建物が南向きのため、夏場の熱負荷に配慮して複層ガラスと赤外線遮蔽フィルムを用いるほか、夜間には飾り窓に仕込んだLED照明が灯り、ガラス開口から漏れる明かりと相まって蔵の内部の温もりを感じ取ることができます。



入口正面のホール部分には 20cm 角の木製柱を円弧状に配置し、伊勢神宮の杉林や境内のイメージを借りたシンボル空間を形成しています。

